

年金広報コンテストの基本的方向について

平成31年3月8日
厚生労働省年金局

年金広報コンテスト募集概要（案）

■ 企画概要

- ・学生など若い世代の方々が、年金や老後の資産形成について関心を持つきっかけとして、また、若い世代の方々にとって理解しやすい広報コンテンツ（動画、ポスター等）を、若い世代の方々に作成していただくもの。

■ 審査の観点・方法

- ・コンテストの趣旨・目的や、期待できる効果等の点について、一次審査、最終審査を通じて評価し、表彰作品を決定する。最終審査においては、コンテンツ作成者によるプレゼンテーションを実施する予定。

■ 表彰

- ・厚生労働大臣賞（グランプリ）、日本年金機構理事長賞、年金シニアプラン総合研究機構理事長賞、年金局長賞等を設定予定

【特別賞】 ※各組織の広報課題に対し、優秀な広報コンテンツを提出した者に以下の賞を設定予定

- ・ G P I F 理事長賞、国民年金基金連合会理事長賞、企業年金連合会理事長賞

■ 応募資格

- ・高校生、専門学校生、大学生、大学院生など概ね15～25歳位の方

■ スケジュール（予定）

- ・募集開始：2019年5月上旬頃 ・提出締切：2019年9月下旬頃
- ・最終審査：2019年12月下旬

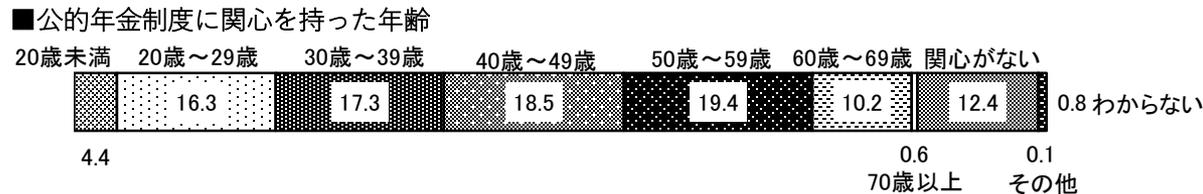
年金広報コンテスト課題（案）

■ 課題（案）

－「若いときから公的年金と私的年金や金融資産等を組み合わせて退職後の生活設計を考えてもらう」ための広報コンテンツ及びその普及方法

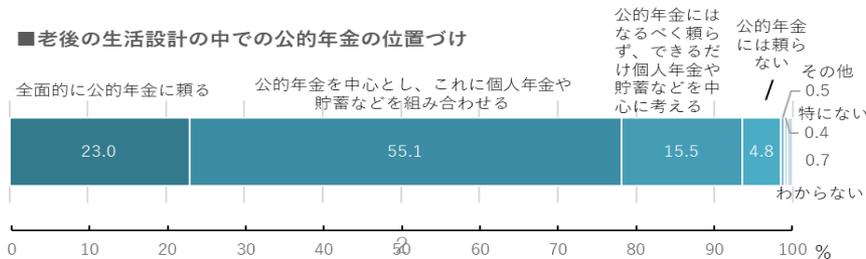
【背景 1】

2018年に実施された世論調査によると、公的年金制度に関心を持った年齢は20歳未満が4.4%、20～29歳が16.3%、30～39歳が17.3%、40～49歳が18.5%、50～59歳が19.4%と年齢層が上がるにつれて関心を持つ割合が増えており、若年層の関心は高くありません。

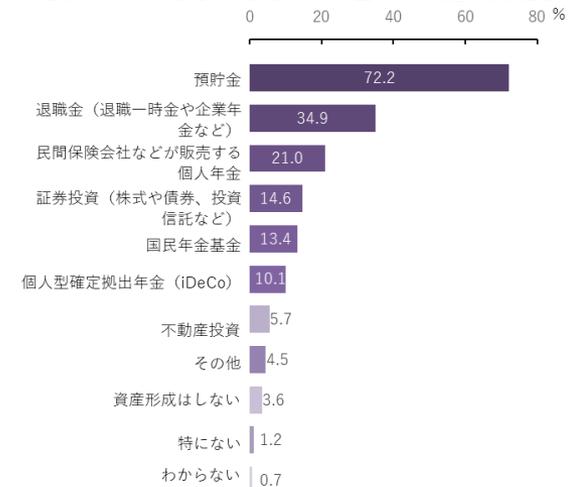


【背景 2】

老後の生活設計における公的年金の位置づけは、23.0%の方が「全面的に公的年金に頼る」、55.1%の方が「公的年金を中心としつつ、これに個人年金や貯蓄などを組み合わせる」と回答しており、公的年金と個人年金や貯蓄などを組み合わせて老後の生活設計を考えている方が多いことがわかります。



■ 老後に向け準備したい（した）公的年金以外の資産（複数回答）



【背景 3】

スウェーデンなどの諸外国でも、若いうちから老後の生活設計について、公的年金や私的年金、金融資産等を組み合わせて考えるような取り組みが行われています。

年金広報コンテスト（仮称）のスケジュール（予定）

■ 募集告知

2019年5月上旬（予定）

- ・厚生労働省HPでの告知
- ・厚生労働省SNS等での告知
- ・高校、大学等の広報課等への周知協力依頼

■ 募集活動等

2019年5月～9月

- ・年金広報コンテスト説明会等の開催
- ・各高校、大学での説明会
- ・審査員の選定、依頼

■ 提出締切

2019年9月中旬

■ 審査

2019年9月中旬～11月中旬

- ・1次審査（～11月中旬）

■ 最終審査（コンテスト・発表）

2019年12月下旬（学校の冬休み期間中）

- ・年金広報コンテスト プレゼンテーション開催
- ・表彰
- ・プレスリリース、HPへの掲載等
（2020年1月以降）

現在の検討状況

- ・「年金広報コンテスト」は、若い世代が手にとって理解しやすい具体的な広報コンテンツ（動画、ポスター等）及び当該コンテンツの展開案を募集するものであり、以下の点について検討を進めている。

○ 募集を促す工夫について

- ・年金広報コンテストに多くの学生等が参加するような工夫

<検討中の周知・広報活動>

- ・厚生労働省での説明会、大学、高校などでの説明会や広報課等への周知協力依頼、厚生労働省HP、SNSを活用した周知広報

○ 審査体制について

- ・第1次審査は、厚生労働省と関係機関が協力して事務的に審査を実施。
- ・最終審査（作成者自身によるプレゼンテーションを含む）は、年金広報検討会の下に年金広報コンテスト審査委員会を設置し、審査を実施。